

UA神奈川学習センター はるだより



2003/4/1 発行

第6巻第2号(通巻22号)

目次:

特集	
「卒業」	2
詩	4
エッセイ	5
学生団体・サークルのお知らせ	6

放送大学神奈川学習センター
〒 232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>
E-Mail:social@u-air.ac.jp



[イラスト:坂戸五葉]

特集： 「卒業」

卒業はひとつの門である

私は、昨年11月12日に卒業研究を大学本部にて提出し、今年1月12日に面接審査も終了しました。今年3月に卒業する可能性が高まったので、今年2月の面接授業は、すこし欲張りをして、「超伝導の物理」「物性物理学入門」「数の体系」の3科目を履修しました。

物性物理学入門の5回目の授業は「超伝導」であったので、「超伝導の物理」の内容と比較することができました。講師の藤原先生が最後にお話しなさったことは、「この辺でそろそろ電子は粒子であるという考え方をやめて下さい」というものでした。藤原先生が言いたかったことは、「電子は広がりを持つもので、質量はあるけれども体積はない」ということでした。電子に体積がないことを初めて知って、我々学生は昼休みにその驚きを話し合いました。

「超伝導の物理」の5回目の授業では、実験室を使用しました。まず、YBCO酸化物超伝導体を液体窒素で冷却し、白金抵抗温度計でその電気抵抗値を測定して温度に換算しました。そ

の後、YBCO超伝導体の電気抵抗と温度の関係のグラフを作成してまとめました。当日の実験では、白金温度計が340オーム、絶対温度に換算すると105KでYBCO超伝導体は電気抵抗ゼロ、すなわち、超伝導状態になりました。当日私が感動したもう一つのことは、酸素を液体窒素で冷却すると、淡い空色の液体酸素ができ、磁石を使って酸素に磁性があることを確かめました。

「数の体系」の授業は、自然数、整数（素数、整数論）、複素数、4元数などの話でした。5回の授業で講義が終わらなかつたので、浅野先生は任意参加の形式で15時45分から17時まで授業を延長し、配布したプリントをすべて説明して下さいました。

私が特に関心を持ったものは、4元数のベクトル解析への応用で、複素数が $a + bi$ と表すのに対し、4元数は $a + bi + cj + dk$ と表わし、実部 $a = 0$ とするとベクトル積が簡単に証明できるというところでした。電流Iの向き、磁場Hの向き、電流にはたらく力Fの向きを考えれば、4元数も割合身近なものかもしれません。

「自然の理解」専攻を卒業するという今の段階になって、今まで苦手な科目であった物理学によくやく関心を持ち始め、「運動と力」や量子力学などの勉強を始めたいというのも妙な心境ですが、それも卒業が過去と未来をつなぐ「瞬間の門」のようなものと考えれば、不思議なことではないと思います。「知は力なり」とよく耳にしますけれども、それは単なる力ではなく、右ねじの法則に従い、「向きのある力」と考えれば、納得がいきます。人生も漠然とあるのではなく、方向性が示されるものなのではないでしょうか。そして人生という一種のベクトル空間において、どの2つとも直交する基底を持つと想像するならば、我々は多面的な人生模様を作ることができるのではないかと思います。



「卒後元年生」になりたい!!



大島 キヨ子

バブル崩壊の声が大きくなり始めた頃、私は家の売買を模索し横浜への転居を目論んでいた。義母を送って十余年、大学生の息子と大学受験を控えた娘がいた。夫は忠実な会社人間、家庭の一大事にも関心は薄かった。

結婚を通しての自己実現願望は役として嫁、良妻賢母を演じるあまり、家庭円満の影に隠れてしまっていた。現状打破を夫は好まなかつた。

だが私のバブルははじけた。平成2年2月引越しが実現した。分刻みの仕事をこなしつつ、受験生を気づかいながら、荷物の配置にも指示を出した。役所の手続きも大変だった。法的な事項には、息子を立ち合わせ難を排した。夫は意をくんで援護をしてくれ、娘も合格し東京への通学を喜んだ。家族みんなの協力に感謝。

新しい土地での生活では、“異文化”を感じた。団地内をバスが走り、広い街路の区画、地中ケーブルなど。庭木の植込みや果実に輝く陽の光、犬との散歩が楽しかった。

一年が過ぎた。五十代夫婦の老後を考えた。子どもが独立したら二人だけになる。住環境が満たされると眠っていた自己の問題が頭をもたげていた。

迷わず入学。4月初回の放送授業は服装を整えて開始を待った。新鮮な気持でスタートした大学生活は四年を目標とした。計画的に科目履修を進め、空き時間を活用して話し、サークルで踊り、学習センターの行事に参加したり、有志で海外へも出かけた。必要に迫られ図書館通いが日常化、ワープロでのレポート提出は興味が増した。カレンダーと手帳は予定で埋まった。卒業研究は自閉症や人格障害の人に接し、実践例を体験的にまとめた。まさに体を張っての百枚となつた。

在学中、学ぶこと知ることの喜びを認識できることは最大の収穫である。「求めよさらば与えられん」という言葉が私は好きだった。

卒業後はよく遊んだ。特に北海道へは何度も行った。最初は夫を誘って北海道一周のドライブをしたが、翌年はユースの会員になって計画

段階からの四十日間一人旅を実現させた。厳冬期の知床へも足を運び大自然の驚異に感動したり、癒されたり、出会ったり。

一人旅の味を覚えてからはツアーを利用して山登りに挑戦。ウォーキングから始めて三年、白馬岳の大雪渓をアイゼンで登った。翌年の八月は立山縦走に参加し電に見舞われた。苦しい上りの後で頂上に立つと達成感が全身を走る。下山して頂を振り仰ぐと喜びに変る。

二年前、夫が退職。夫は家事をしながら家にいるのが好きらしい。特別なこと以外は買物や炊事、洗濯掃除を手早く丁寧にこなし、まめに動く。私は運動不足に陥るばかり。

私は安全性と利便性、将来性を考えて家の建て替えを決意した。老後の生活を見込んで夫婦だけで最後の大仕事を成し遂げた。

卒業から八年。六年間は野外活動で理想的だった。この二年間、遊びの対手は日進月歩の孫になりつつある。この原稿依頼を受けた時、私は「卒後元年生」に再びなりたいと思った。



特集：
「卒業」

卒業後の私

吉田 恵子

思い起こせば、当時、長男四歳、長女二歳、専業主婦であった私は、子育てをしながらも自分を向上させたいという思いから放送大学に入学しました。昭和63年12月に入学し、卒業するまでの間、三人目の子どもを出産し育児のためしばらくの間休学をしましたが、平成9年9月に卒業しました。

今、振り返ると放送大学での学びは次に目指す道への大きな土台となりました。ちょうど卒業の頃30代後半に差し掛かっていた私は、子ども達が巣立って行った後の人生をどのように生きて行くか、卒業を機に何かできないかと模索していました。

私は高校生の時、看護師を目指しましたが、挫折しその道に進むのをあきらめたことがあります。しかし、長い年月がたってもどこかあきらめられない気持ちがあり、再び看護師を目指してみようと思い翌年看護学校を受験し合格することができました。若い人達と机を並べ四年間を過ごしました。そして、昨年看護師になり、現在家庭との両立をさせながら病院で働いていま

す。

医療の対象は、「病」ではなく「人」です。医療の中で、近年患者さんの生活の質が重要視されるようになってきました。健康に対する意識も生活の質の向上へと意識が高まっています。それに応えるには、患者さんの全体をとらえて理解し関わっていくことが大切です。

私は、放送大学では、「発達と教育」を専攻しました。学びを通し、人間に対する理解を深める事ができ、広い視野で一個人を受け止めることができるようになったと思います。放送大学での学びは、現在看護を実践する上で大きな糧となっています。

放送大学では、幅広い年齢層の方が、熱心に学んでいました。多くの方の熱心な学ぶ姿勢は、いまだに私にとって自分への励みとなっています。これからも、学ぶ姿勢を失わず、少しでもよい看護が患者さんに提供できるように日々すごしていきたいと思っています。

詩：Someday

佐々木 健充



世枯汚だいわ今天純た粹のなかがどんなんに汚くても
のれのついかつかは國つ粹のなかがどんなんに汚くても
中葉日か世らかは國つ粹のなかがどんなんに汚くても
がのま神のほそと純粹な世界に入れるような気がする
Somedayいど中様中ほそと純粹な世界に入れるような気がする
信じて いる つんにほに伏くはえぞん汚て宝るて春物日春心の富をかかえて
Somedayいど中様中ほそと純粹な世界に入れるような気がする
がのま神のほそと純粹な世界に入れるような気がする
中葉日か世らかは國つ粹のなかがどんなんに汚くても
のれのついかつかは國つ粹のなかがどんなんに汚くても
世枯汚だいわ今天純た粹のなかがどんなんに汚くても



高齢化社会に適応した住まい

田中 静一

エッセイ

我々が住んでいる地球上にはいろんな住まいがある。日本でも独特な住まいを生みだしそれを受け継いできた。日本の住まいを語るときよく

つれづれぐさ

持ち出されるのは徒然草の中で作者・兼好法師が述べた「住まいは夏を旨とすべし」というくだりである。なるほど梅雨時から夏にかけて高温多湿の蒸し暑い気候が続くと不快な感じがする、そこで日本の住まいは風を取り込み室内の熱気を貯めずに外に吐き出すのには都合のよい仕組みであり家の中は一室住宅で必要に応じて一時的に衝立てや襖で仕切ったものだった。

和風の住まいは襖で仕切られた部

らんま

屋でも襖の上の欄間で繋ぐなど天井面での風通しをよくし涼しくするなど、日本の住まいは都合よくできている、しかし現代の都会では殆どこのような建物を見かけることは少なくなってきた。

昭和期に入って次第にプライバシー重視の住まいに移行し、その流れをいっきに加速したのが戦後の民

主主義の高まりである。昭和30年代の後半石油ストーブが入り、ストーブの輻射熱と空気の対流と両方を暖房するなど、アツという間に日本中に普及し建築家の住宅設計にも異変が生じたのである。北海道と沖縄を除く大部分の地域では夏蒸し暑く、その割に冬の寒さもかなり厳しい、結局冬はさまざまな暖房装置に頼り夏はクーラーで涼しくするなど、人工的な装置に依存する体质へと変わり、自然環境とうまく折り合い乍ら暮らしていくという伝統はいつの間にか忘れられてしまった。しかしこのような生活を続けていると、しまいには完全にコントロールされたカプセルのような装置の中でしか暮らせないという事態が起こりかねない、ましてわれわれ人間の生理的心理的な側面にどのような影響を与えるのだろうか、その一つに生理学の分野では適温のもとで飼育されたマウスのほうが、通常の温度変化のもとで飼育されたマウスよりも生存率が低下し病気に対する抵抗力も弱いといった報告もある。

冬の縁側での日向ぼっこ、夏の風通しのよい座敷での昼寝といった快適な居住性を新しい住まいの中に取り戻すことが必要である、それは単なる伝統的な住まいへの回帰を意味するものではない、伝統的な住まいから我々が学ばなければならない点は、自然のエネルギーを活用した室内環境の調整という基本方針である。

夏と冬の気候の変化が激しい我が国において、できるだけ自然気候を活用した快適な住まいを造るためににはさまざまな工夫が必要であり、現代の技術を駆使いろいろな細工を盛り込んで、それぞれの地域にふさわしい住宅のあり方を追求していくことがなによりも必要である。特にこれから多くなる高齢者の住もう想いの部屋など、住み良くな健的な部屋のデザイン化を図っていかなければならぬと思う。 ······

学生団体・サークルのお知らせ

中国語学習会

東洋文化のルーツ中国、発展目覚しい中国を簡単な日常会話を学びながら知ることができたらと思いませんか。そんな思いから出発したサークルが『中国語学習会』です。

会員同士の親睦を図りながら、放送と面接授業だけの学生生活では得られない何かを、折角の生涯学習の機会を楽しみながら見つけてみませんか。メール友として人生を語り、憩いのひと時をお花見に過ごす和気藹々としたサークルです。

学習内容と日程

(1) 学習内容

初級(放送教材中国語 使用)

中級(会話を中心に)

(2) 日程

第一、 第三日曜日の

午前10:00~12:00 中級

午後13:00~15:00 初級

お二人の中国の先生から学んでいます。毎月の日程表が、入り口正面掲示板に掲示されます。ご都合の良い日に是非一度見学にお越し下さい。会員一同心からお待ちしています。

事務局

090-1818-2115 堀籠 悅子

初級担当

045-712-0903 吉原 司郎

活動報告：中国語学習会の風景

「中国語学習会」初級 木村勝紀

横浜の北海道。妙な書き出しが、中国語学習会初級、中級合同の新年会でのお話し。

横浜駅西口、天理ビル25階の居酒屋「北海道」で、2月23日(日)時期はずれの中国語学習会新年会が行われました。初級の栗林先生、中級の朱先生 majestic て20名の参加。

中国語学習会の会員は、初級12名、中級14名、合計26名ですから参加率は高い。

会長挨拶、日頃お世話になっている両先生に感謝を込めて花束贈呈、先生の挨拶、乾杯、しばし歓談のあと、各自自己紹介。たどたどしい中国語をまじえての自己紹介。恥を搔くのを覚悟での紹介に爆笑あり、拍手喝采ありで賑やかなことこの上もない会場。和気藹々のうちに進み、両先生を中心に記念撮影をしてお開き。両先生はすっかりご機嫌、我々も満ち足りた気分で帰路につきました。

こんな和やかな会を開けるのが中国語学習会。初級、中級とも単位認定試験中の1月、7月を除いて毎月2回、一回あたり2時間の授業を行います。初級は、単位認定科目「中国語」の教科書を忠実におさらいをします。中級は、外国人向けの中国語口語テキストを使って、北京語中心に中国語会話を勉強します。予習を怠らなければ、何とか付いていける程度のレベル。栗林先生、朱先生ご兩人ともに、うら若き中国生まれの中国人。優しく丁寧に教えてくれます。

学期初めの4月、10月には、新入生への入会案内のセレモニーを行い、協力して新しい会員の募集を行います。14年度の「フェスタ・ヨコハマ」では、初級、中級合同で朱先生ご指導のもと、一般の方々にも自由にご参加いただける模擬中国語講座を開きました。

筆者は、中国語学習会歴1年未満のずぶの素人ですが、恥をかきかきしながら結構授業を楽しめるようになりました。時には授業の後、お茶をするなど個人的な交流も楽しみのひとつです。中国語にご興味のある方は、気軽に門を叩いてみて下さい。

旅にいこう会(行楽・名所旧跡等)

学習履歴表に依る情報交換

会員相互の研究発表

H P運営とパソコン初心者講習

清風亭ネットの会(ネット上で会話を楽しむ 有志の会)

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を広げたい方の入会をお待ちしています。

行事予定(4月~9月)

4月5日 新会員勧誘、歓迎会

4月下旬 15年度総会・月例会

5月下旬 月例会(情報交換・研究発表)

6月中旬 6月旅にいこう会

7月中旬 月例会(情報交換・研究発表)

8月24日(日) フェスタ・ヨコハマ

9月中旬 一泊研修旅行

清風亭ネットの会のイベントは別途スケジュールで実施

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鵠沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会活動報告

2月23日(日)曇り 小田原フリーガーデンで観梅

JR小田原駅(バス) 小田原フリーガーデン(徒歩) 玉宝寺(大雄山線)

JR小田原駅(解散)

参加者 幹事 小林 貞二 以下20名。石川 守、井上 道代、王丸 文八、川崎 晓子、菊池 智、橋川 昌弘、木下 義則、齋藤 京子、齋藤 多美江、芝崎 芳和、鈴木 信之、諭訪間夫妻、田嶋 早苗、鶴田 昭彦、星野 明美、堀 誠、村上 信子、脇田 貞次郎

午前9時45分JR小田原駅に集合、バスに揺られること30分、小田原フリーガーデンに到着。幹事の小林さんの挨拶があり一人宛自己紹介。

フリーガーデンは無料だが、温室の植物を見るためには入場券が必要で、その時「え? 学割使えないんだー」とがっかりしている人もいた。

温室に一步足を踏み入れるとまさに熱帯の植物といえる色鮮やかな

神奈川放友会

新入学の皆さん入学おめでとう御座います。

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り、学習を援助する サークル活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修(大学本部・Museum等)

花々に迎えられた、日本では見られない肉厚の葉をもつ背の高い木々に南国の植物の生命力の躍動感を感じさせられた。

今日のメインイベント「観梅」のため梅林の入り口に行くと「先着300名様甘酒無料サービス」があり紙コップの甘酒を飲みながら梅林の中を歩いた。ささやかな小川のせせらぎが聞こえ、都会の喧騒を忘れさせてくれた。因みにここは「渓流の梅林」と呼ばれている。梅の写真を撮る人、梅の香りを楽しむ人、一句考える人、皆、思い思いに梅を満喫していた。梅林の中央にきたところで、昼食を摂ることになりつつろぎながら談笑のひと時を過ごした。

お腹も一杯になったところで、梅林の見残した所を一通り歩いて、フランガーデンを後にして次の目的地、玉宝寺までの道のりを30分くらい歩いた。途中では蜜柑畠があり遠くには小田原城が見える幹事の小林さんの案内のもと玉宝寺に着いた。

玉宝寺は天桂山玉宝寺といい、曹洞宗香雲寺(秦野市)の末寺である。本堂には「五百羅漢」と呼ばれる24~60cmの526体の羅漢像があり、その中には必ず自分と似た顔の羅漢像があるという。私は「五百羅漢像」を初めて観たのだが、その神秘的な雰囲気に魅了された。

方丈様の説明を受けた後、皆夫々に「五百羅漢像」を見て歩いた。自分に似た顔の羅漢像を探したり像の前でお経を唱えたり、お布施をしたり。

寺の境内で幹事の小林さんから今日の予定が全て終了したことの説明があり伊豆箱根鉄道・大雄山線で小田原駅へ戻り駅前の喫茶店でミーティング、ピールを飲む人ケキを食べる人、今日一日皆で楽しく過ごした想い出を振り返りつつ、和やかな一時を過ごした。

普段お逢いできない方々と、梅を楽しみ、自然の中を歩き、初めて五百羅漢像を観て、本当に有意義な、楽しい一日でした。幹事の方々、色々と有難うございました。

川崎 晓子記

うえるかむKanagawa

“うえるかむKanagawa”は神奈川学習センターに所属する学生のための英会話グループです。

*英会話を何年も学習したが話せない

*以前は話せたがすっかり錆びついてしまった

*もっと実際に役立つ実力を身につけたい

このような学生のために私達は月二回学習会を開いています。

午前中はネイティブの先生を迎へ初級、中級に分かれてカナダやアメリカの事等free talkingを楽しみながら学習しています。

午後は自主学習で、初級はラジオ基礎英会話 やGATEWAYSをテキストに、中級は英字新聞等を利用し興味あるニュース、トピックについて自由討議を行っています。海外ビジネスで実践英会話を身につけた方々もメンバーにより練習台に利用できますから一度覗いてみませんか。午前又は午後どちらか一方の参加でもかまいません。

例会

毎月第2、第4水曜日

AM10：00~11：00 中級

AM11：00~12：00 初級

PM13：00~15：00 グループ学習

“うえるかむKanagawa”的母体である“うえるかむ”的行事は年に4~5回行っています。休日だけ、又1年に1度しか出席できない人達も集り、各支部合同で親睦を深めています。海外のオープン・ユニバーシティを訪問したり昨年11月には磐梯国立青年の家で天文の集いを持ち、月や流星群の観測を楽しみました。皆様も是非お仲間になりませんか。

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

野末：044-287-0270

星：045-844-9647

放送大学同窓会

神奈川学習センター同窓会第14回通常総会を開催いたします。

[総会]

日時：平成15年5月11日（日）

午後1時から

場所：神奈川学習センター講義室

[講演会]

演題：思春期のつまづきをめぐって
- 子ども達の話をどう聞いたらい
か -

講師：東洋英和女学院大学人間科学
科 矢吹和美教授

日時：総会終了後午後2時30分から

[開国の町横須賀を

ハイキングしましょう！]

今年はペリー来航百五十年の節目とのことで、横須賀ではいろいろのイベントが催されるようです。日本の夜明けの地、ペリー来航のゆかりの地を訪ね、当時の歴史が現在の日本にどう影響しているのかをペリー記念館その他で感じてみませんか？

皆様のご参加をお待ちしています。

日 時： 平成15年6月15日（日）

コース：

京急浦賀駅～西叶神社～灯明堂～
ペリー公園（ペリー上陸記念碑・ペ
リー記念館）

集合場所：京浜急行浦賀駅 13時集
合 · 13時10分出発

問合せ先

大花 0468(661)2195

佐々木 045(472)6482

約五程歩きますので歩き易い
靴と飲物をご用意下さい（小雨決行）

人間学研究会

【例会】

4月 5日(土)「私の学習法」「人間研ってどんなところ？」
 5月 11日(日)「和算について」
 6月 14日(土)「日本人と韓国人：知り合おうとしない隣人たち」
 7月 13日(日)「上海における工場立ち上げの体験談」
 8月 24日(日) 神奈川学習センター祭 フェスタ・ヨコハマ
 9月 宿泊研修（赤城青年の家にて）

例会は、午後1時00分から神奈川学習センターの講義室にて行います。卒業研究の発表、ワークショップ、講演会などの内容です。入会前に、見学ができます。（日程は、変更される場合があります。）

このほか、例会前にキャンパス・ネットワークの講習会を行うことがあります。

例会および人間学研究会全般についてのお問い合わせは、
 Tel : 045-302-1121 松本まで。

【歩きましょう】

4月 2～4日「おくのほそ道を歩く」
 最終回 塩津浜～関が原～大垣 = 54km

4月 12日 三峰山ハイキング（丹沢山東側）

5月 15～16日 両神山登山（百名山）

6月中旬 雨飾山登山（百名山）

7月初旬 桧枝岐と尾瀬

8月初旬 朝日岳（百名山）

9月 未定

10月 戸隠・高妻山登山（百名山）

UA神奈川学習センター

11月 1～3日 日本スリーデーマーチ（埼玉県東松山市）。

11月 22～23日 五島列島ウォーキングと長崎街道を歩く（鳥栖～長崎）

12月 23日 「汽笛一声33kmウォーキング」（新橋～桜木町）

2004年1月 鎌倉歴史ウォーキング

2月～3月 オーストラリア出張中の友を尋ねて

上記以外にも簡単な日帰りのハイキングや歴史散歩を計画しています。

歩きましょうについてのお問い合わせは、

Tel : 046-841-7937 大出 まで。

UA神奈川学習センター はるだより編集部

発行者：神代和俊

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、
 松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

・神奈川学習センターの人事異動で、佐々木英俊事務長と、山本伊佐子さん、濵谷克子さんが退任になり、福島要介事務長、伊澤礼子さん、宮本治美さんが新たに着任されました。退任された方々に感謝いたすとともに、新任の方々どうぞよろしくお願いいいたします。

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「なつ」だよりの特集テーマは、「フェスタ・ヨコハマ」についてです。参加しての感想など学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて6月上旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。また、「書評」「読後感想文」も400字程度で受け付けます。奮ってご応募ください。常時「放送大学」と「神奈川学習センター」についての原稿も受け付けております。

